

## 令和4年度学校教育自己診断票 結果について

### 1 回収率について

幼児児童生徒 54.4%(昨年度 72.4% -18.0%減)

保護者保証人 56.1%(昨年度 63.8% -7.0%減)

教職員 91.9%(昨年度 95.8% -3.9%減)

今年度は昨年度に比べて、すべての対象で回収率が若干減ったが、要因としては、質問に答えられる幼児児童生徒が減少したことや、在籍人数に対して一人当たりの割合が大きくなっていることがあげられる。次年度は、幼児や重複障がいのある児童生徒等、本人が回答することが困難な場合には、保護者回答にまとめた質問用紙を作成するなど、記入する側の負担を減らしこれまでより正確な回答が得られるように改良したい。

### 2 集計結果について

#### (1)保護者回答より

28項目中、肯定的意見 70%以上のものは27項目で、そのうち20項目が90%以上だった。昨年に比べると、増加したのが15項目、減少したのが9項目、変化なかったのが3項目だった。新規の1人1台端末の利用は80%であった。特に大きく増えたのは、「交流する機会を設けている(16%)」、「情報提供に努めている(13%)」であった。

肯定的意見が70%を下回るものは1項目で、「学校の施設・設備は学習環境面で満足できる」で昨年より15%増加したものの55%であった。老朽化対策として、随時補修を行っているが残念ながら、追いついていない状況がある。今後も施設・設備のチェックを行い学習環境を整えとともに早期の建替えを訴えていきたい。

#### (2)児童生徒の回答より

18項目中、肯定的意見 70%以上のものは14項目で、そのうち、6項目が80%以上であった。しかしながら、全体で昨年より14項目低下した。これは今回、児童生徒からの提出率が低く、特に専攻科生徒からの提出率が低かったことに加えて否定的評価が多くなったことが影響している。

特に低くなった項目について、学校全般、勉強、先生では肯定的評価が70%以上であるが、「先生は私たちのことを大切にしてくれている(17%減)」、「先生は話をよく聞いてくれる(23%減)」、「先生は優しい言葉づかいで話してくれる(16%減)」、「命の大切さや社会のルールについて教えてくれている(18%減)」などが大きく低下した。教員の生徒への関わりについて再度見直していかなければならないと考える。昨年も低値であった「学校のホームページやマチコミメールを見聞きしている」が28%で、昨年より13%減少した。これは、本校の幼児児

## 大阪府立大阪北視覚支援学校

児童生徒がインターネットでホームページなどを閲覧できる状況が少ないことも要因と考えられる。

一方、上昇した項目として、「先生は将来について考えさせてくれる(12%増)」、「ほかの学校の人たちと交流している(22%増)」であった。交流についてはコロナの制約が緩和されたこと、オンラインを使った交流が広がってきたことが影響している。今年度から追加した「1人1台端末の活用は67%であった。

### (3)教職員の回答より

29項目中、肯定的意見70%以上のものは20項目で、その内、4項目が90%以上であった。その中で、「学級担任以外の教職員とも相談することができる教育体制が整えられている」が10%増加した。一方で、「安全指導が徹底している」の項目が12%減少した。1人1台端末の活用は教職員では肯定、否定が半数ずつに分かれた。

肯定的意見が70%を下回るものは9項目で、特に、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」が44%と極めて低く、昨年より12%減少した。また、「各分掌や各学部・学年間の連携が円滑に行われ、教職員が連携して業務に取り組む体制ができている」が56%で次いで低く、昨年より4%減少した。今年度分掌業務を整理して各職員に役割を振ったが機能しなかった。次年度は職員が連携して業務に取り組む体制づくりに力を入れていかなければならない。

## 3 学校教育自己診断 児童生徒、保護者、教職員の意見

意見については、なるべく原文のまま記載。

### (1)校舎・設備に関して

保護者 校舎のつくりがわかりにくい作りになっているので、建替えの可能性があれば是非、保護者・生徒の意見を取り入れて下さい。

保護者 校舎が古いのでしょうかないと思いますが、冬はとても寒そうです。水道も水しか出ないので、いつも、しもやけになってしまいかわいそうです。

児童生徒 中庭と体育館をつなぐ階段の手すりや窓などが鳥の糞や羽があって、触りたくないです。きれいにしてほしいです。

教職員 放送・情報機器の中には、壊れかけのもの、ほとんど使えないものがある。児童生徒の教育活動に関するものは、買い替えが必要であると思う。

教職員 消耗品や施設の修理をなかなかしてもらえない。追加予算で買うばかりでなく修理やクリーニングに使えるとよい。

校長より 校舎は来年度還暦を迎え、幼児児童生徒の皆さんには寒い教室で授業を受けなければならないことを申し訳なく思っています。財政的にすぐの建替えは難しいところがありますが、必要な修繕には予算がつくように引き続き要望していきます。

## 大阪府立大阪北視覚支援学校

### (2) 人事に関して

- 保護者 視覚障がい児教育は障がいの理解が教育者にあってこそ成り立つので教師の異動はあまり望まない。視覚に特化した資格を取得した教師の異動が過去にあった。
- 保護者 年度中に、担任の先生や、子どもが関わっている先生がやめたり、新しく来られたりする際は、その都度早めに知らせてほしい。今年度は、学校からではなく、他の保護者から教えてもらうことが多々あり、親も子もとまどいました。
- 保護者 全盲児が少なくなってくると点字ができる先生や歩行指導などができる先生が少なくなってくるのではないかと思うので、全盲児などがいなくても、点字はできるようにしてほしい。
- 教職員 府教委に学校ごとに特色に合わせた支援学校の教職員定数配置の抜本的な見直しをしてほしい。
- 教職員 学部・担任団の男女比を生徒の実態にもっと合うようにしてほしい。

校長より 専門性の維持、継承は重要であることは十分認識しています。一方で組織の活性化には人が変わることによる新陳代謝も必要です。本校の教員には、専門性の育成はもとより、支援学校の教員として求められる力の育成にも研修等を通して育成していきます。

### (3) 一人一台端末

- 児童生徒 端末が用意していることさえ知らない。
- 保護者 一人一台端末が活かせていない気がします。iPadを活用すれば印刷物をもっと減らせると思う。

校長より 本校では幼児児童生徒の見え方が異なるので画一的な活用が難しい面もありますが、教員も活用方法を工夫検討していますので、今後は活用の幅を広げていけるよう努めていきます。

### (4) 保護者の参画

- 保護者 懇談で担任と話をして伝えても伝えたい事に対してやってもらえない事がある。担任が変わってもしっかり申し送りをして次の学年につなげてほしい。何度も同じ事を伝えて時間だけが過ぎていく事が多い。
- 保護者 保護者が学校へ来づらくなっているせいか、あまり保護者の意見が通りにくく、先生方と子どもの様子もわかりづらい（全学部）。もう少し保護者の声を聞いてもらえたら、よりよいものになるのでは？

校長より 保護者の皆様の話を聞く機会をもっと作らないといけないと感じています。次年度は学期に一度、管理職が保護者から話を聞く機会を設けたいと思います。

## 大阪府立大阪北視覚支援学校

### (5) その他

- 児童生徒 学校の歴史が長いことを忘れないでほしい。
- 児童生徒 中学部に制服、体操服（ジャージ）をつくってほしい。
- 児童生徒 学部や学校内の細かいルールを決めて周知させてほしい。生徒が発言しやすく、実行されやすくしてほしい。
- 児童生徒 休業中に補習を行っていただきありがたかった。今年度、職員がいろいろあったことをふまえて来年度は考えていただきたい。

校長より 様々なご意見をありがとうございます。幼児児童生徒が安心して楽しく学べるように、教職員一丸となって教育環境を整えていきます。

### (6) 教職員の意見

教職員からは、働き方改革、学部間連携、専門性・校内研修など様々な意見が寄せられました。教職員に対しては別途お示ししますが、ここでは紙面の都合上、主なものを掲載します。

#### ① 働き方改革

- ・職員間の仕事量を均等にする。
- ・業務をマニュアル化し、スケジュールや手順を記録していく。
- ・行事の見直し、教員以外でもできる仕事を外部委託し、少しでも放課後の雑務を減らす。
- ・個別の指導計画や個別の教育支援計画の内容を見直す。

校長より この他にも多くの意見をいただいています。働き方改革は喫緊の課題として今年度内に働き方改革プロジェクトを立ち上げ、①スクラップ&ビルド、②業務の効率化、③業務の適切な分配、④教職員の意識改革を柱に進めてまいります。

#### ② 学部間連携

- ・学部間での考え方の違いを感じる。もっと学部間で意思疎通を図るとともに、管理職はもっと各学部とのヒヤリング等をしていく必要がある。
- ・生徒の少人数がさらに進むと教職員減が予想されます。幼児児童生徒一人ひとりの成長のためには教職員全体が関わるという意識がますます必要と感じます。これは幼稚部から理療科まで含めた視覚障害教育を立て直しの教育として全体で考えることにもつながると思います。また、生徒の緊急対応時に他学部の教職員による突発的応援が必要なケースなどにも生かせると思います。

## 大阪府立大阪北視覚支援学校

校長より 生徒数の減少、学級数の減少による教員数の削減は現実に次年度起こります。これまでのように学部単位で教科指導を行うことも分掌業務を行うことも難しくなる場合があります。これら乗り越えるには、お互いの協力と知恵を出し合うことが肝要です。今こそ力を併せましょう。

### ③ 専門性・校内研修

- ・視覚障害教育の専門性の引継ぎ、継承。
- ・重度重複児の発達についての理解を深める。
- ・研究目標があいまいで学校教育目標と校内の研究体制がかみ合っていないので、校内の研究・研修体制を整えた方が良い。
- ・教職員の声を聞き、的をしぼるなど研修計画を見直す必要がある。参加者が非常に少ないものも多く周知方法にも課題がある。
- ・全体研修は継続して行っていただきたいと思います。任意でしたら参加が意識と条件に左右されますが、やはり色々気付ける機会が多い方に越したことがないかと思われま

校長より 教職員の皆さんが研修を望んでいるのは様々なご意見からうかがい知ることができます。にもかかわらず参加者が少ないのは会議等で時間が取れないことも一因としてあるかと思えます。年間を通した計画と事前の周知は重要です。次年度は全校研修を2か月に1回設ける事なども検討したいと思います。